

利益計画を立ててみよう!

税理士法人土屋会計事務所
代表社員・税理士 土屋 進

(入門編)

例題…自動販売機でジュースを販売 自動販売機の維持費 10,000円/月(電気代・メンテナンス費用等)
ジュース 仕入代金 160円/本 販売価格 200円/本 月何本売れば利益がでるのか?

答 ジュース1本当たりの利益は…200円(販売価格)−160円(仕入価格)=40円
自動販売機の維持費を賄うには…10,000円(維持費)÷40円(1本あたりの利益額)=250本
→251本以上売らなければ利益が出ません
売上高 50,000円(200円×250本)
仕入価格 −40,000円(160円×250本)
粗利益 10,000円
維持費 −10,000円
利益 0

利益がゼロのときの売上高→損益分岐点売上高といえます(例題の場合は50,000円)
ここで重要なのは総費用を固定費と変動費に区分することです。

固定費…売上に関係なく発生する費用(人件費・地代家賃・保険料等)例題では維持費の10,000円
変動費…売上高に比例して増減する費用(仕入・外注費等)例題では仕入価格160円/本 40,000円(250本)

損益計算書

| | | |
|-----------------|--------------------------------------|-----------|
| I. 売上高 | → | 売上高 |
| II. 売上原価 | 変動費・固定費 − | 変動費 |
| 売上総利益 | | 粗利益(限界利益) |
| III. 販売費及び一般管理費 | 変動費・固定費 − | 固定費 |
| 営業利益 | | 経常利益 |
| IV. 営業外損益 | 固定費 | |
| 経常利益 | | |
| V. 特別損益 | | |
| 税引前当期純利益 | ※粗利益率 粗利益÷売上高(例題の粗利益率 40÷200=20%) | |
| 法人税等 | ※損益分岐点売上高 固定費=粗利益 | |
| 当期純利益 | 粗利益=損益分岐点売上高×粗利益率(50,000×20%=10,000) | |
| | 損益分岐点売上高=固定費÷粗利益率(10,000÷20%=50,000) | |
| | 50,000÷200(1本の販売価格)=250本 | |

変動損益計算書

| | | | | | |
|-----|--------|-----------|--------|-----|--------|
| 売上高 | 50,000 | 変動費 | 40,000 | 固定費 | 10,000 |
| | 80% | (仕入・外注費) | | | |
| | | 粗利益(限界利益) | 10,000 | | |
| | 20% | | | | |

この例題の変動損益計算書を使って、目標利益を10,000円にした場合の売上高は?

| | | | |
|------|---------|---|---------------------|
| 売上高 | 100,000 | → | (固定費+目標利益)÷限界利益率 |
| 変動費 | 80,000 | | (10,000+10,000)÷20% |
| 粗利益 | 20,000 | → | 固定費+目標利益 |
| 固定費 | 10,000 | | |
| 経常利益 | 10,000 | | |

| | | | | | |
|-----|---------|-----------|--------|-----|-----------|
| 売上高 | 100,000 | 変動費 | 80,000 | 固定費 | 10,000 |
| | 80% | (仕入・外注費) | | | |
| | | 粗利益(限界利益) | 20,000 | | |
| | 20% | | | | |
| | | | | | 利益 10,000 |

(応用編) この手法を使って、貴社の必要売上高はいくらになるでしょうか。

貴社の粗利益率、固定費の金額を把握していますか。例えば、貴社の粗利益率が50%、固定費が月500万円とした場合、すぐに損益分岐点売上が計算できますか。また、貴社が上げなければならない売上高はいくらか、把握していますか。利益計画を立てるときは、売上からではなく利益額から立てるのです。

●利益とは『社員を守るためのコスト』であり、『事業存続のためのコスト』

会社存続のために絶対必要なものは、売上でもなく、粗利益でもなく、利益です。この利益は、会社が稼げる利益ではなく、会社が稼がなければならない利益です。利益額をまず最初に決めるわけですが、これは一般的に(借入金の元金返済額−減価償却費)とされています。ほとんどの会社は借入金なしでは経営ができません。借入金は利益の前倒し、その返済は利益額から返済しなければなりません。それは、さらに税引き後の利益からなので、法人の場合同利益額の約30%が法人税等としてかかってきます。例えば月100万円の返済をするためには100万円÷(1−0.3)=約143万円の利益額が必要です。(減価償却費をマイナスすれば利益額は少なくなります、いまわかりやすくするため無視します)利益額143万円を稼ぐためには、いくらの売上高が必要でしょうか?上記の変動損益計算書の手法を使って考えましょう

| | | | | | |
|-----|---------|-----------|-------|-----|-------------|
| 売上高 | 1,286万円 | 変動費 | 643万円 | 固定費 | 500万円 |
| | 50% | (仕入・外注費) | | | |
| | | 粗利益(限界利益) | 643万円 | | |
| | 50% | | | | |
| | | | | | 税引前利益 143万円 |
| | | | | | 税金43万 |
| | | | | | 税引後利益 100万円 |
| | | | | | ⇒ 借入金 元金返済 |

目標利益(143万円)+固定費(500万円)=粗利益額(643万円)

643万円÷50%=1,286万円…必要売上高

- ④売上高 1,286 → 643万円÷50%
- ⑤変動費 643 → 1,286−643 (1,286×50%)
- ③粗利益 643 → 500万円+143万円
- ②固定費 500
- ①経常利益 143

利益計画の立て方

- ①経常利益額を決める…(借入金元金返済額−減価償却費)、1人当たりの利益額
- ②固定費を計上
- ③粗利益額を計算…固定費+経常利益
- ④必要売上高を計算…粗利益額÷粗利益率
- ⑤変動費を計算…売上高−粗利益 (売上高×変動費率)

変動費率=変動費÷売上高

最後に利益計画検討表で種々の条件を変えてシミュレーションしてみる。この場合注意してほしいのは、条件(利益額、粗利益率、固定費)を一つだけ変えて検討する。必要売上高が以上に大きくなりがちですが、1年でむりなら3年、5年、10年をかけてつなぎ資金の融資を受けながら借入金の返済をしていく検討もしてみる。